

佳代先生が神戸市文化賞を受賞しました！

神戸市文化賞を受賞しました

11月17日(火) 相楽園

賞状や盾など本部教室に飾っています どうぞご覧ください

ずうっと そう もう50年以上 やりそこなってばかりして生きてきました

そんなわたしを 支え続けてくださった研究所の生徒と保護者のみなさんに まず感謝し 心からお礼を申し上げます

そしてわたしの友人と神戸市民のみなさんに 深く頭をたれて 「ありがとうございます」と何度も申し上げます

やりそこなってばかりですが まだもう少し踊りを創りたいし 踊っていたいのです

もう少しが何年になるか分かりませんがどうぞ支えてくださいませ

お願いいたします

藤田佳代

活動報告

発表会がおわりました！

第31回藤田佳代舞踊研究所発表会 2008年10月26日(日) 神戸文化大ホール

「クスノキのカンタービレ」「わたしは今日も空を見た」

出演 藤田佳代舞踊研究所研究生

10月26日(日)神戸文化大ホールで第31回藤田佳代舞踊研究所発表会が無事終わりました。出演者全員がそれぞれ成長し、すごい踊りをみせてくれました。いい舞台でした。ありがとうございました。保護者の皆さま、観客の皆さま、ありがとうございました。

さて、毎年出演者やお客さまに感想を書いていただいていたのですが、今回はテーマを決めて、「ちょっと裏話」を公表したいと思います。テーマは「早替え」です。文字通り、大急ぎで衣装を着替えることです。1分以内と勝手に定義します。プログラムをよく見ていただくと、出演者の名前が続きの作品にあることがあります。衣装が同じであれば問題ないのですが、衣装を着替えなければならぬとなると、結構大変です。実は私は一番苦手でお腹が痛くなるくらいです。自分の着替えならともかくとして、誰かを着替えさせるとなると・・・できればこの役は他の誰かに・・・とも言っていられないことが多いので、今回もありました。では、「早替え」です。

カムリ座からニホンオオカミ座へ

僕にとって早替えが、今日の舞台で一番の難関となった。

「あっ・・・」プログラムの原稿を見たとき、僕はあることに気付いた。僕の出演する、カムリ座とニホンオオカミ座が続いて並んでいたのだ。他の出演者の都合上、この順番が一番良かったようなので、今年は久しぶりに早替えすることになった。

僕が早替えするのは、第27回の『あした またね』以来、実に4年ぶりだ。早替えには、うす暗い舞台袖で、極わずかな間に正確に衣装を着ることが要求される。今回はデュオニソスからハイロオオカミへの早替えだった。

初めは、オオカミの頭飾り以外の衣装をデュオニソスの衣装の下に着ていたのだが、踊る際に支障をきたしてしまうので、レオタードのみ着用に変更した。一番の問題は、オオカミの頭飾りだった。かなり激しく踊るので、いい加減に止めてしまうと、すぐに外れてしまう。以上のことを、自分一人ではどういえる訳がないので、本番は誰かに手伝ってもらうことになった。

そして迎えた本番、デュオニソスとして踊った後、暗がりに駆け込み、あれよあれよという間に神から獣、ハイロオオカミに代わり、手伝ってもらったお陰でオオカミの群れの最後に余裕でスタンバイできた。

デュオニソスを終えてから1分足らず、今度はハイロオオカミとして舞台上に立った。今となっては、舞台袖に入ってから、とにかく早く着替えて行かなくてはと思っていたことしか覚えていない。

谷岡亮

ハト座からカシオペア座へ

私は発表会で2曲続けて出演しました。まず最初に、「ハト座」に出ました。「ハト座」の踊りが終わったら2曲続けて「カシオペア座」に出ました。早替えは、まくの中で友達に手伝ってもらいました。リハーサルの時は「間に合うかな・・・？」と思っていたけれど、本番の時は緊張して、そんなよゆうはありませんでした。でも、何とか間に合いました。友達が手伝ってくれなかったら、間に合わなかったと思います。

西田 比奈

トキ座からフィナーレへ

「わたしは今日も空を見た」。プログラムの最後は「トキ座」でした。「トキ座」が終わって最後のフィナーレで出演者全員が出てくるのですが、トキ座の青の鳥で出演している上田理央ちゃんが、「ツル座」のツルの役をしていたので、フィナーレは最初に走り出なければいけないことが分かったのは、10月に入ってからでした。ポーズで終わって走りこんで、次に出るまで、おそらく30秒くらい。魔女役の姜未喜ちゃんとトキ役の稲益夢子ちゃんがどんなにがんばって時間を長引かせても、それ以上は無理。理央ちゃんには普段のリハーサル中もずっと衣装を持ってきてもらって、稲益敦子さんに手伝っていたら、早替わりの練習をしました。脱がせて着せる、二人で着替えだけならまず大丈夫。でも頭飾りは、青の鳥の飾りを取るだけよ、と納得してもらっていましたが、実はもう一つ大きな不安がありました。お稽古場でなら着替えて出るのは可能。でも大ホールは広いのです・・・。まず踊り終わりの位置が、舞台後ろ。そこから走りこんで、次に出てくる舞台前まではかなり距離があります。10秒はロスしてしまいそう。しかもフィナーレで出演者がたくさん集まっている中を走れるかな。理央ちゃんには黙っていましたが、内心は少々不安でした。にもかかわらず、さらなるリスクを高めるべく、頭飾りも付け替えようと、かじさんにも着替えの手伝いをお願いしていました。

まずは、ゲネプロ。理央ちゃんが走りこんで、舞台後ろの位置で着替えさせました。舞台袖はフィナーレにでるためにたくさん集まってきていました。三人で着替えさせたので、余裕がある！頭飾りも変えられる！！と思った瞬間、飾りが誰かに蹴飛ばされてどこかへ行ってしまったのです。「うわあ、とばされた！！」とかじさんの悲鳴。ひええ～！！でも時間がない、頭はそのまま舞台前まで走りましたが、やっぱり人が大勢いて走りにくい、本番は対策を練らなければ、と思いつつ理央ちゃんを送り出しました。夢子ちゃんには長い時間だったかもしれませんが、そして、本番を迎えました。ゲネの教訓で、舞台前で着替えようと椅子を置きました。そして、フィナーレのために集まってきていた出演者たちを見てふと考えました。バリケードつくってもらおう。理央ちゃんの走りこむ幕から着替

えて出て行く幕まで、一人が走れる広さだけ開けて、ずらりと立ってもらったのです。「ここに人が入ってこれないようにして欲しいねん」と話すと、「わかった」「ここに入ってくるねんな、よっしゃ」と頼もしい返事が返ってきました。トキ座の踊りが終わって理央ちゃんが走りこみます。通して！！と一応声を掛けましたが、みんながバリエードをつくってくれていてすんなり通れました。わたしが頼んだ人数の倍近い人が立ってくれていたように思います。着替えて、蹴飛ばされることもなく頭飾りをつけて、10秒くらいかな。理央ちゃんは完璧な姿で舞台に出て行きました。大成功でした。Okを出すまで、我慢してくれた、未喜ちゃんと夢子ちゃん、誰も通さないようにしっかり立ってくれた人たち、本当にありがとう！！
菊本千永

そのほかの舞台

ピッコロフェスティバル

8月17日(日) ピッコロシアター 「幻影」 作舞 向井華奈子 出演 西田梨緒 平岡愛理 山下真奈 姜未喜 向井華奈子
「雨の奏」 作舞・出演 長谷川千夏 仲間くみ子 名田麻希子 萩原陽子 梁河茜

ダンスブーケ 8月24日(日) 本部スタジオ

関西音楽舞踊協会創立40周年記念コンサート

9月14日(日) 松方ホール 「黒と白のエチュード」 作舞 藤田佳代 出演 寺井美津子 金沢景子 かじのり子 向井華奈子 灰谷留理子

ふれあいの祭典

10月5日(日) 国際会館こくさいホール 「白い花咲いたよ」

- ・ただそこに在りゆうぐれの月見草
- ・レジスタンス心は誰のものでもない
- ・間違いは間違いとおせ桐の花
- ・ガム幾万吐き捨てられて沖縄よ
- ・曼珠沙華視野いっぱい悔いである
- ・この罪をとび超えたくてバツ飛び(藤田作品)
- ・白い花咲いたよ 白い花散った(藤田作品)

時実新子川柳より

作舞・監修 藤田佳代

出演 寺井美津子 金沢景子 菊本千永 かじのり子 向井華奈子 灰谷留理子 萩原陽子 仲間くみ子 梁河茜 西田梨緒 田中彩加

今後の予定

観に来て下さい！

菊本千永モダンダンスステージⅢ 11月22日(土) 県民小劇場

「ゴーストバスターズ」 「GIFT」 「cuddle me」 「memories」 「doppelgänger」 「歩く」

作舞 菊本千永 藤田佳代(歩く)

出演 寺井美津子 金沢景子 かじのり子 向井華奈子 鎌倉亜矢子 灰谷留理子 石井麻子 仲間久美子 名田麻希子 萩原陽子 長谷川千夏 梁河茜 西田梨緒 平岡愛理 山下真奈 姜未喜 佐藤彦香 西津華世 谷岡亮 田中彩加 谷岡みなみ 菊本千永

私は死ぬ前に一度、いえ死んでもいいから見てみたいものがあります。

世界の始まりと、世界の終わり、そしてもうひとりのわたしです。しかし、これらは決して見てはならないもの、もしくは見てしまっただけで生きていくことができないものかもしれません。このどうあがいても太刀打ちできない大きなものをどうしても踊りにしてみたくて、長い年月をかけて作品を創りためました。

世界の終わりを考えたとき「ゴーストバスターズ」ができあがりました。国家や社会や企業は人間にとって必要なものとは思いますが、それらが、人間が作り出したものであるにもかかわらず、いつの間にか人間を超えて大きくなり、一人の人間はその存在の前に数字上の存在でしかなくなってしまう、現状。私はこのことが怖くてなりません。このことが当たり前になってしまったら、本当に世界の終わりが来るのではないかと思っています。でもそうではないのだ、と。まずは人間が存在している、人間に戻ろう、との思いから創りました。

「歩く」は藤田先生の作品です。これは世界の始まりです。地球に最初の生命が現れてついに人間が歩くまで、約6億年がテーマになっています。歩き始めた人間は十万年かけて地球を一周したそうです。なんてすごい一歩。人間ってなんてすごい。リハーサルの度に永い時間を感じています。でも、この一歩の果てが世界の終わりにつながらないことを願ってやみません。

もうひとりのわたし、は「GIFT」「cuddle me」「memories」「doppelgänger」の四つの作品で考えてみました。

今回の6作品。自信をもってどうぞご覧くださいませ、と言えるようになりました。指導してくださった佳代先生と、熱心に踊ってくれる出演者のおかげです。リハーサルは実際すごい熱気でした。汗と蒸気で、一回リハーサルが終わると床をからぶきしなければならぬほどでした。また、出演者が皆、自分の問題として踊りを捉えられて、振り付けをずいぶん助けてもらいました。毎回本当に感謝しながらのリハーサルでした。この仲間と一緒に踊ることができて幸せです。ぜひお出かけくださいませ。お待ちしております。

菊本千永

各教室クリスマス会 12月最終レッスン日

毎年発表会が終わると、普段のレッスンというものは味気なく感じてしまうものなのですが、今年は、発表会後すぐのレッスンから、クリスマス会の踊りを始めました。こども1(幼児科)クラスの生徒さんはその役割は担ってはいませんが、それ以上の生徒さんは、「こういう音楽、こういうテーマ。では踊りを考えなさい！」と、いろいろと考えなければならなくなりました。ジュニア生は手馴れたものですが、こども2(児童科)クラスの子どもたちはまだそこまでではありません…とおもっていたのですが、どうして、いろんな振り付けが次から次から出てくるのです。そして、したいこと(自分の得意技とも言う)がきちんとあることに驚かされました。考えてきてくれた振り私(菊本)は、どうしても音楽にあてはめよう、などとして、「ここ、こういうふうにしてもいい？」と余計なちょっぴりをだしたがります(佳代先生はほとんど手出ししません。華奈子先生はこども1クラスすら野放しです。景子先生は逆にタイトルを渡されて四苦八苦しています。のり子先生は傍観しています。美津子先生は1から12まで干渉したいのですが、我慢しています)。それに対して、納得がいけばok。いかなければダメ。これらははっきりしています。手出しする私がいけないのは重々承知なのですが…。今回のクリスマス会。どの教室の作品もみごとなコラボレーションになっていることと思います。お楽しみに！

編集後記

子どものうちは、時間が経つのが遅くて大人になるにしたがってどんどん早くなる…。まことに実感している今日この頃ですが、時間が経つのがはやく感じることは脳の老化だそうです。今回発表会が終わってまだ一月経っていませんが、あっという間だったようにも思うし、発表会はずごく昔のことのようにも思います。ま、どうでもいいのですが、単純な老化じゃないよね?!と確認してみたかったです。今年ももう残すところ後一月。少し早いですが一年間ありがとうございました。
責任編集 菊本千永